

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 40 回 松阪市手話施策推進会議
2. 開 催 日 時	令和 5 年 2 月 3 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 5 階正庁
4. 出席者氏名	（委 員）深川誠子、栗田季佳、牧戸淳、高柳吉紀、亀田紀子、 中里恵子、中村勝博、榊原典子、大辻結花、越川元博、 西浦有一 （事務局）西嶋秀喜、渋谷万里子、小山賢司、村田智美
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	0 名
7. 担 当	松阪市福祉事務所障がい福祉課 TFL 0598-53-4059 FAX 0598-26-9113 e-mail : shogai.div@city.matsusaka.mie.jp

○協議事項

- ・令和 4 年度「まちかどミニお手話べり会」反省と来年度に向けて
- ・「松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例」施行 10 周年記念事業について

第 40 回 松阪市手話施策推進会議 議事録

日 時：令和 5 年 2 月 3 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：松阪市役所 5 階正庁

出席委員：深川誠子、栗田季佳、牧戸淳、高柳吉紀、亀田紀子、中里恵子、中村勝博、
榊原典子、大辻結花、越川元博、西浦有一

事務局：西嶋秀喜、渋谷万里子、小山賢司、村田智美

傍聴者：0 名

1. あいさつ 市長あいさつ

2. 報告事項

■学校における手話学習推進事業について

事務局 資料 1 をご覧ください。前回の会議でもご説明させていただきました、市内の全小学校へ講師と手話通訳者を派遣し、手話に関する授業を行う事業について、来年度からの実施に向けて学校支援課と協議を進めてきました。その中で、昨年の 12 月にこの事業について新聞に掲載されたことを受け、できるだけ早く校長会において事業の説明をさせていただく必要がありましたので、先月の 1 月 24 日にありました校長会で事業の概要について説明を行いました。その時に配布しました資料を、本日机に置かせていただきましたので、後でご覧ください。前回の会議でお伝えしました内容から変更したことや、新たに決まったことなどがありますので、ご報告させていただきます。まず、対象の学年について、前回の会議では 5 年生の教科書で手話を扱っていることから、対象も 5 年生にするとお伝えしましたが、4 年生の人権学習で手話に取り組む学校もあり、5 年生に限定しない方がいいのではないかと学校支援課よりご意見をいただきました。そこで基本的には 4 年生、または 5 年生から 1 学年を対象とし、各学校や児童の実態に合わせて柔軟に対応させていただくこととしました。授業時間については 45 分程度で授業 1 限分です。授業内容については深川会長よりご提案をいただき、「聞こえない・聞こえにくい人について」等の講義と、あいさつ等の基本的な手話の実技を基本として行う予定です。もし学校側で他に希望される内容がある場合は、事前にお知らせいただき、可能な範囲で対応させていただきたいと思っております。今後のスケジュールについては、年間 6 校、6 年間で全 36 校を訪問する予定です。スケジュールの案として裏面をご覧ください。訪問する対象 6 校は、実施する前年度の 3 月頃に、学校支援課と毎年相談して決めることになりました。派遣費用については障がい福祉課が負担し、委託料として 1 回当たり 12,000 円の予定です。最後に、授業を実施す

るまでの流れについて説明させていただきます。資料下部の図をご覧ください。まず①、小学校から障がい福祉課へ実施希望日等を報告いただきます。実施希望日の2ヶ月前までにご報告いただくよう、各小学校にお願いする予定です。次に②、障がい福祉課からろうあ福祉協会さんへ実施希望日等をお伝えし、日時や講師の調整をしていただきます。次に③、ろうあ福祉協会さんで決定した日時を障がい福祉課から小学校へ連絡します。その後④、小学校とろうあ福祉協会さんで授業内容や必要な備品について、メール等で打ち合わせをしていただき、⑤実施日当日に講師と通訳者を派遣するといった流れになります。この内容については、深川会長と事前に協議をし、了承を得ております。

議長 ありがとうございます。先ほどの説明や報告について何かご意見はありますか。この内容でよろしいでしょうか。皆さん同意いただくということでしょうか。ありがとうございます。

3. 協議事項

■令和4年度「まちかどミニお手話べり会」反省と来年度に向けて

事務局 (資料説明)

ここで皆様に今年度のまちかどミニお手話べり会について、反省やご感想を出し合ってください、今後活かしていきたいと思っております。また、来年度のイベントについて、今年度と同じような内容とするか、他に何か新しいことをするか等、ご提案がありましたらお聞かせいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

議長 皆さんイベントにご協力いただきましてありがとうございます。感想や反省点など、1人ずつご意見いただければと思います。

委員 去年と違ってたくさんの方が来場してくださって、実際に手話でやりとりができるコーナーがあったことが1番良かったんじゃないかなと思います。もっとやりたいと言ってみえた子どもさんが結構いました。確か教えてもらう言葉の数が決められていたような形だったので、なかなか時間的には難しい部分があるかと思いますが、もう少し子どもたちだけでも言葉の数を増やしてあげたかったなと思いました。

委員 当日はたくさんのお子様連れの方がみえて、こんなに賑わうイベントなんだなと実感しました。ちょうど手話のテレビドラマがあったこともあって、自分で手話を勉強していると言っている方もみえましたし、動画を熱心に見ていた

いている風景も見ました。先ほどもお話がありましたけど、普通に触れ合う機会がもっとあってもいいのかなと思いました。また次回、この経験を活かせられたらなと思いました。皆さんありがとうございました。

委員 今回初めて経験させていただいて、皆さんが手話の体験を喜んでいたなと思いました。僕も初めてなのでマウスガードとかの準備に戸惑ったりもしました。アンケートにもろう者との交流を増やしてほしいという意見がたくさん書いてあったので、年1回ではなくて、2回、3回とあったらいいなと。まずやっぱり触れ合うということが一番いいのかなと僕は思いました。これからまた増やして行ってください。

委員 本当に久しぶりに表彰式もできて、ご家族で写真撮影をされている姿もあって、その子どもさんが手話に興味を持たれて家族の方も一緒に参加をして、「本当に手話って大事なんだと実感をした」という言葉も聞いて良かったなと思います。手話を覚えるコーナーではアクリル板を作ってもらってあったんですが、机がちょっと狭くて、手話をするにはアクリル板がちょっと邪魔だったかなというような感じがしたんです。机をもう1台ぐらい置けると良かったのかなと思います。でも、本当にたくさんの方に来てもらって、聞こえない人たちもたくさん協力してくださって、お話ができて良かったなと思いました。

委員 皆さんと同じような感じで、今回は本当に活気があって、いろんな人に来ていただいて、小さい方からご年配の方まで手話に興味を持って覚えたいとか、楽しかったなというお声が聞けたのはすごく良かったなと思います。バルーンで飾り付けとか、ほしい方に持っていただくとか、そういうのも喜ばれる1つかなと思いました。あと集計結果のところで、スタンプラリーのスタンプが2つ以上集められなかった方が数名みえて、その方たちにも景品を持っていただけのような働きかけはできたんじゃないかなと思いました。次回の開催では、コロナのこともありますが、皆と一緒に参加できる、手話を元にしたクイズとかができたらいいかなと個人的に思いました。でも、皆さんがすごく手話に興味を持っていただいているのがわかって、すごく良かったなと思います。

委員 私は当日司会進行をさせていただきました。非常にうまくできなくてご迷惑をかけたと思うんですが、何とか無事に終わることができてほっとしております。シナリオの準備をさせていただいており、そこに出席者のお名前を書いていたんですが、始まってから変更がいろいろあり、私も混乱してうまくできなかった面もありました。わかる範囲で前もって、始まる前に変更点につい

て教えていただけると心の準備ができたかなと思っています。会場については、以前に比べて広い場所を使うことができたので、たくさんの方に集まっていたきやすかったのではないかなと思います。前はできなかったスタンプラリーが久しぶりにできたというのもあって、たくさんの人に来ていただけたのは非常によかったかなと思います。イベントが終わった後に、アピタへ買い物で立ち寄った時に、フードコートのがり角の通路の辺りに展示みたいなのがあったのを見て、なるほどかなと思いました。歩いて行ったすぐ目の前にそういう展示物があるのもいいかなと思いました。ただちょっと邪魔に思ったので、いつもの場所とどっちの場所でやるのがいいのか、皆さんと一緒に考えていきたいかなと思います。今回の展示の仕方は、移動の邪魔だったんじゃないかなと思ったんです。パネルやコーンでイベントのスペースを仕切ってしまった方が、他のお客さんと入り乱れたり、子供連れの方が混乱しなくていいのではないかなと、イベントが終わった後に他のイベントの様子を見て思いました。ただ取り囲んでしまうとスペースとしては狭くなってしまうという難点があるので、今まで通りでも構わないかなと思うんですけど、こういうやり方もあるのではないかと後から思いました。

議長 ここでイベントをやっていることがわかりやすくなるように、コーンでスペースを取り囲んではどうかなという意見でした。ただ、そういうことをするとスペースが狭くなるので、どちらがいいのかなという迷いがあるということですね。

委員 まずは皆様、当日は大変お疲れ様でございました。私も昨年と今年と2年参加させてもらいました。皆さんのご意見の中にもありましたが、やはり去年よりもたくさん人もみえましたし、当然内容も充実してましたよね。表彰式もありましたし、本当に良かったかなと思います。私の感想としては、アンケートに書いてある感想が全てかなと。本当に皆さんに喜んでいただいた。人を集めての啓発イベントというのはやはり大切だと改めて思いました。来年度についても、充実したイベントにしていただければと思っております。

委員 私は今回初めて参加させていただきまして、おそらく昨年まではコロナの影響もあったことで、今年は盛況になったというような話かと思えます。たまたま知り合いのお母さんと子どもさんが来てまして、子どもさんに手話を習ってみたらという話をしたんですけど、なんか恥ずかしいとか言って啓発物品だけもらって帰って行ったというようなことがありました。その時に、やっぱり誰もが初めてする時というのは1歩踏み出す勇気がすごく必要なかなと思いま

した。イベント自体はすごく充実していたんですが、その子どもさんは恥ずかしがって行かなかったというところから考えますと、この学校における手話学習推進事業というのをある意味きっかけにして、例えば普段同級生の子ばかりの中で手話を習うことで、そういった1歩も踏み出せるんじゃないかなと思いました。そういう1歩目をどうやって踏み出すのかというところで、この事業についてはすごくいいんじゃないかなと思いました。

委員 イベントを開催した11月は少し寒い時期なんですが、ミニお手話ベリコーナーの会場が、2階の駐車場から1番近い場所で、自動ドアが開く度に寒いなと感じました。それが1番印象に残っています。

議長 ありがとうございます。私の方からも反省させていただきます。3年ぶりに表彰式が開催できたのと、ミニお手話ベリコーナーも開催できました。それはとても嬉しく思っています。やはり入選者の方は家族で来ていただいて、いろいろとお話できたことがとても嬉しかったです。10年か20年ぐらい前は、お会いした時にとても嫌がられるというか、怖がられるようなことがあったんですけど、今は普通におしゃべりができるようになってきて、社会の雰囲気が変わってきたなと感じました。会ってお話ができる、そういった環境に変わってきてよかったなと思っております。毎年このイベントを続けてきていますので、それもいいことかなと思っています。先ほど言われたように、やはり年に1回だけではなく、こういった触れ合うような場が2回、3回と開催できるといいなと思っております。あと最後に言っていただきましたように、初めてのことに対してちょっと勇気がいると聞きました。そういう子もいるんだなということで、勇気を持ってお話していただけるように何か他の機会も考えていかないといけないなと思っております。皆さんいろんな感想をいただいてありがとうございました。来年度に向けてどのような内容にしていくといいか、例えば今年のままでいいのかとか、何か案がありましたら順番にお願いしたいと思いません。いかがでしょうか。

委員 イベントの当日は欠席してしまい、ご協力できずに申し訳ありませんでした。皆さんのお話を聞かせていただいたり、アンケートを読ませていただくと、とても良い機会になったんだなということを感じました。アンケートの(6)皆さんからの意見・要望のところ、23番の10歳未満の女の子が「漢字が読めなかった」と書いてあって、きっと漢字を習い始めの小さい子もそうですし、外国籍の方も読めないということがあるんじゃないかなと感じました。私もこれまで気づけなかったところで、幅広くいろんな方に手話のことを知ってもら

うためには、ふりがなを振るということも大事なのかなと思いました。また来年度も皆さんで楽しめるイベントにできたらと思います。来年は私も参加したいと思っていますのでよろしくお願いします。

議長 よろしくをお願いします。そうですね。アンケートに書かれていたように漢字にふりがなを振る。来年の参考にしていきたいと思います。

委員 アンケートの中にも書かれていたことなんですが、やっぱり手話を使ってやり取りするというのが子どもたちもすごく楽しかったと思うので、今度は例えば皆でできるような手話の〇×クイズをしたりとか、手話の歌を学校で歌っている時もあるので、もし声が出せるような状況でしたら、皆で手話をしながら、少しずつ歌を覚えていくというようなイベントがあるといいかなと思いました。

議長 手話の歌ですね。考えていきたいと思います。

委員 来年度ということになりますと10周年の記念事業に続くようにということで、気分が盛り上がるような内容にできたらいいなと思っています。他の委員さんもおっしゃってみえたように、もし来年もあの場所でやるなら、レイアウトは考える必要があるのかもしれないですが、逆に通りすがりの人も参加できるという意味では今回のような商業施設でやるのは効果があるだろうと思っています。回数を増やすのは、どんなふうにするのか考えないといけないかと思いますが、もう少し増やしてもいいのではないかなという気はしています。

委員 自分も先ほどの意見と一緒に、とにかく交流会、ふれあいというのを増やしていただいて、それが手話をやるきっかけになれば、開催の意義があると思いますので、ぜひやってほしいなと思っています。

委員 先ほど意見にありましたように、皆で一緒にできるようなことがあるといいのかなと思ったので、例えば時間を決めて、30分間ぐらいミニ手話教室をすることで、椅子だけ並べて一角を作って、10人から15人ぐらいで、あいさつとか自分の名前を表す手話を1個ぐらい覚えて、その後、皆で聞こえない人も交えて交流をして、あいさつや名前の紹介をして、紹介をした人同士でカードを交換して、そのカードをたくさん集めた分だけ景品がもらえるみたいな、たくさんの人と手話で話して交流するようなことができると、全員で楽しくできるのかなと思いました。あとは年1回はやはりちょっと少ないかなと思うので、年

2回ぐらい、春と秋ぐらいにできるといいのかなと感じました。

委員 先ほどの〇×クイズと似た感じになると思うんですが、パネル展示のところにいろんなことが書いてあると思うので、それを読んでいただいたらわかるようなクイズを寸劇みたいな感じで行いながら考えてもらって答えを出してもらうのはどうかなと思いました。

委員 皆さん言っていただきましたように私も同じく〇×クイズもいいと思いますし、手話のミニ教室というのも面白いと思います。また、バルーンに子どもたちがたくさん寄っていただいたのがよかったので、ぜひバルーンは続けたいなと思います。2年後に10周年行事になりますので、あっという間だなと感じております。手話かるたを皆で見えてわかるような大きめのものを作って、子どもたちがこの手話はこれだという感じで、試してみたいなと思います。ちゃちゃもにも応援に来てもらったら、子どもも喜んでくれるんじゃないかなと思いました。ぜひ2年後の記念行事の時には、ちゃちゃもに来てもらったらどうかなと思いました。そういう着ぐるみを着たことがあるので、やるのであれば、僕が被ってもいいですよ。

委員 やはりクイズはやってほしいですし、手話歌もいいかなと思います。高校生がダンスを覚えてくれていますので、そういった動画とかもいいですね。3年前にマームで開催された時の内容と同じでもいいかなと思います。

議長 3年前の、クイズですとか、手話ダンスの披露ですとか、高校生のダンスチームにお願いして来てもらってダンスを披露してもらおうとか、そういったイベントも良かったという意見がありました。その時は本当に多くの方に来ていただいていたので良かったなど。それをまた復活させてはどうかという意見をいただきました。

委員 2年後はろう者2人でトークショーみたいなものも面白いかなと思いました。

委員 来年度のイベントについてですが、皆さんのお話を聞かせていただきますと、やはりイベントの対象は子どもさん向けにしたいのかなと感じました。私もそう思うんです。そうしますと、やはり学校における手話学習推進事業にすごく関連付けてくるのかなと思います。逆に言えば、そこで教えてきた子どもさんが、習って吸収してきたものをミニお手話べり会で活用するというように、関連付けてやっていただければ、あの時の授業が良かったし、あの先生がこのイ

イベントに来てもらっているなら私も行こうかなというような形で、イベントに来ていただけたらいいかなと思います。啓発というのは続けていってこそ啓発ですので、何回もミニお手話べり会をされるのも1つの方法ですけども、逆に言えば、学校で教えていただいたことがそのままイベントに引き継がれていくという形でやっていただければいいかなと思います。あと先ほどの意見にもありましたが、ルビを振っていくというのは、やはりバリアフリーということで、当然必要だと感じております。それも含めて、子どもさんが参加しやすいイベントというのは大人も参加しやすいイベントなのかなと考えておりますので、来年度の時に覚えていただければいいかなと思っております。

委員 アンケートの結果を見てましても、イベントの回数がもう少しあればいいかなと書いてありますが、なかなか同様のイベントを2回、3回やるとなると、それなりの労力もかかりますし、大変な部分もあるのかなと想像できます。例えば何かのイベントとタイアップする形でやるとか、そのイベントの一角にお手話べり会ができるくらいの部分を入れていただくとか、大きくやらなくても回数や機会が増えるといった方法も考えてもいいのかなと思いました。

議長 先ほどおっしゃられたように、この推進会議でのイベントだけではなく、他のイベントとのタイアップみたいなことができればいいなと私も思います。アンケートの中に、手話の冊子がほしいというようなご意見を書いていただいています。そういう販売のブースは作れるんでしょうか。先ほど出た意見をまとめていただければと思います。

事務局 物品の販売につきましては、会場によって、お金のやり取りができる場所とできない場所が決まっているかと思えます。来年度に向けて様々なご意見を出していただきありがとうございます。イベントをより良くしていくためのご意見等がたくさんありましたので、事務局の方でも考えさせていただき、来年度の会議で内容等についてより深めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

■「松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例」施行10周年記念事業について

事務局 資料2をご覧ください。松阪市手と手でハートをつなぐ手話条例は平成26年4月1日に施行し、令和6年度に10周年を迎えます。条例の一層の周知とさらなる手話普及を図るために10周年を記念したイベントを開催してはどうかと思えます。イベント自体は令和6年度の事業でまだ先ではありますが、予算

の要求時期は令和5年度の10月頃になりますので、それまでにこういった内容を行うのかある程度決めていく必要があります。まず事務局の提案ですが、毎年11月頃にアピタで開催しているまちかどミニお手話べり会について、令和6年度に関しては10周年記念事業の中で、まちかどミニお手話べり会で行っているような内容も組み込んで開催してはどうかと思いたしますがいかがでしょうか。次に場所の候補としましては、農業屋コミュニティ文化センターや、嬉野ふるさと会館などがあります。どちらも使用日の1年前から予約が可能ですが、仮予約は協議したうえで1年よりも前から可能であると確認しております。本日は何か決定していただく必要はございませんが、いつ頃、どこの会場で、どのような内容のイベントをするのかといった大枠を自由にご提案いただきたいと思いたしますので、よろしくお願いたします。

議長 毎年開催しております、まちかどミニお手話べり会を10周年事業として開催したいということで、皆さんよろしいでしょうか。

委員 事務局がおっしゃった内容は、10周年記念事業という大きなイベントの中の一部として、今のまちかどミニお手話べり会でやっているような内容を、その会場で取り入れたらどうかということですね。

議長 組み込んでということですね。わかりました。10周年の大きなイベントを開催するにあたって、毎年開催しているまちかどミニお手話べり会の内容を一部そこに入れ込んで盛り上がるような内容を考えていきたいと思いたします。開催日はいつくらいがよろしいでしょうか。今までは11月に開催していましたが、1周年の時は8月と1月に2回開催しました。10周年の場合はどうでしょうか。私の意見としては、子どもさんが参加しやすい月がいいかなと思いたして、映画の場合は何月がいいとか、そういった内容によっても日にちは変わってくると思うんですけども。教育委員会さんとしては、小学生、中学生さんが参加しやすい月は何月くらいとかはありますか。

委員 やっぱり夏休み中がいいかなとは思いたんですが、夏休みの土日は子どもたちが参加するようなイベントが割と集中するようなことがあって、うまく重ならない土日を選んでくださるとありがたいかなと思いたします。

議長 夏休み中の土日ということですね。

委員 特に小学校の低学年とかはやっぱり親御さんと参加するし、場所が遠い子たち

もいますので、親御さんが連れて来てくださるということを考えると、やっぱり土日がいいのかなというふうに思います。

委員 1周年の時に2回開催されたのは何か理由があったのでしょうか。

事務局 2回開催したいという意見があったわけではないのですが、映画や体験型の催し物など、内容としていくつか候補がある中で、映画については事前の準備期間がそれほど必要ないことから早い時期に行い、体験型の催し物については、例えばどこかに依頼をかけるなど、準備の時間がかかるので、時期を遅らせて行うことになったと思います。

議長 まず内容のご意見をいただいてから、時期について決めていくということでしょうか。まずどのような内容がいいかと、その内容であればいつ頃がいいかというように話を進めたいと思います。まずは内容についてご提案をいただきたいと思います。委員の皆様いかがでしょうか。私はたくさん意見があります。まず1つは映画の上映会。全日本ろうあ連盟が作った映画があります。1周年の時は「ゆずり葉」を上映しました。「ゆずり葉」も全日本ろうあ連盟が製作したもので、差別の中で苦しんだり、困ったりしたことや、障がいとは何かということテーマにした内容ですが、今回ご提案している映画の内容はちょっと違っていて、様々な人がいるのが当たり前、その中で暮らしやすい環境を考えていくといった内容の映画です。2点目の提案内容は手話パフォーマンスです。三重県立聾学校の高等部の子どもたちを招いて、手話パフォーマンスを市民の皆さんにご覧いただいたり、耳の聞こえない子どもたちの生き生きとした様子を見ていただく。あとは皆さんが参加できるようなもので、例えば、ダンスのインストラクターをしている人がいるので、その方たちをお願いをして、小学生の子どもたちに一緒にダンスに参加してもらおう。踊ってみたい子集まれみたいな感じで一緒に踊ってもらってもいいかなと考えています。障がいを持った人たちに出会う機会が小学校でもあると思うので、そこも含めてダンスの中で体験してもらえたらと思っています。ダンスを踊ってみたい人を前もって募集をして、インストラクターさん2人をお願いをして、予め練習をしてもらって、それをイベントの時に披露するというのを提案したいと思います。本番までの指導を受ける期間に、いろんな交流であったりとか、お話をするきっかけになると思いますので、イベント当日だけではなくて、それ以前のところで交流を深めて、当日出来上がったダンスを披露するというような、そういう時間をかけた内容もどうかと思います。他には、広いブースを準備して、今までのミニお手話べり会のような、動画を見ていただいたり、手話を学んでいただいた

りというブースも作れるといいかなと思っています。他の委員の皆さんもぜひご提案いただきたいと思います。

委員 以前、俳優の大和田伸也さんをトークショーに呼んだことがありますよね。そういう俳優さんを呼べるお金があるのならば、この前手話のドラマ「silent」が終わりましたし、今は「星降る夜に」をやっていますよね。非常に若い人たちが手話を覚えて、聞こえない人がすごく一生懸命指導をされてやっていたし、それから「しずかちゃんとパパ」という映画もありました。そういうふうに、今タレントさんとか俳優さんの間で手話を覚えてもらうということがすごく増えてきているかなと思うんです。そういう人たちもお仕事だから一生懸命頑張るわけですけど、そうやって手話を覚える中で、聞こえない人の生活や大変さがわかってみえたかなと思うので、そういう方たちを呼べる予算があるのであれば、呼んでもらうと、子どもたちもテレビで見た人がこんなに頑張って手話を覚えたんだなど、すごく PR 効果は高いのかなと思います。私は四日市の手話サークルにも行っているんですが、四日市の手話サークルは毎週新しい人がどんどん入って来るんですね。やっぱりテレビの影響で手話を覚えたいと、親子で来たり、兄弟で来たりとか。そういう人たちがどんどん手話を覚えていて、将来手話通訳者が増えていけるといいので、うまく活用できないかなと思います。

議長 事務局さんいかがでしょう。ギャラが高いかなと思うんですけど、その辺りはいかがでしょう。

事務局 どれくらいの規模の予算が取れるのかある程度わからないと、予定が立たないというのが本来だと思うんですが、1周年の時は本当に破格であったと聞いているんです。なので、ここまでは難しいんじゃないかなと想定はします。今のところこういうことしか申し上げられなくて本当に申し訳ないです。

委員 ありがとうございます。予算はかかりますが、10周年はすごく大事な年かなと思います。参加費は有料で1,000円とか1,500円とか取ったらいいと思うので、なんとか市の予算と入場料とかで、皆さんが話し合っているかなと思えるようなイベントができればいいかなと思いました。

事務局 1周年の時は大和田さんをお呼びし、イベント全体として400万円ぐらいの予算を取っていたそうです。これが取れるかどうかというのは未確定で、なんとか努力はしていきたいと申し上げることしか本当にできませんので、申し訳な

いですがよろしくお願いします。

委員 イメージの確認ですが、集合形式で、会館で何か映画や誰かを呼ぶのをメインに据える感じでしょうか。そこだけ確認したいなと思います。

事務局 事務局側の思いとしましては、そういった映画や講演会等、集合形式のものをメインとし、同時進行にするのか時間を分けるのかは検討が必要ですが、まちかどミニお話し会のような、体験や交流できるような内容もやっていきたいと考えております。

委員 映画は、会長さんからご紹介がありましたが、割と全国でも上映されているものなんでしょうか。

議長 そうです。ただ今、全国的にやってみようということで進めている映画です。3月4日に松阪市でも上映会があります。会場が産業振興センターで、定員が100名でちょっと少ないんですけども。来週からその広報を始めるところです。本当は市民の皆さんにたくさん来ていただきたいんですが、会場の都合もありますので、今回は手話サークルやろうあ協会の関係団体等にPRをしてご参加をいただこうというところです。

委員 先ほど講演会のお話があったので思い出したんですが、以前ろう学校に、ろう者と聴者のお笑い芸人2人組がみえて、ろう者と聴者のすれ違いとか、聴者の手話表現とろう者の手話表現の違いとかを、面白おかしく講演というか芸として表現されていて、すごく面白かったです。その時にその芸を見た、聴覚障がいの子どもを持つお母さんがおっしゃっていたお話が印象に残っています。「娘と一緒に始めて笑うことができた。これまでは、手話は私も十分わからないうし、聞こえる音声だけのテレビだと自分が楽しんでいて、娘は十分楽しめない。けれども、ろう者と聴者の2人の芸を見た時に、一緒に笑えたのがとても嬉しかった。」とおっしゃっていたんです。きっとこの手話条例の目指すところはそういうことかなと思うんですね。ろう者も聴者も皆一緒に社会に参加して、同じように経験を分かち合う。そう考えると、そういうろう者と聴者の1つの関係のあり方とか、情報保障がある上での娯楽の示し方とか、そういうことを表せるんじゃないかなと思います。もし講演ということであれば、若い人たちが関心を持つ素敵な方を呼ぶのもいいかなと思うんですけど、楽しくてさらに今後の社会のあり方を感じられるような人を呼んでもいいかなと思いました。

議長 そうですね。私も思い出しました。三重県聴覚障害者協会で、手話フェスティバルを毎年持ち回りでやってるんですけども、3年ほど前に、志摩市を会場として開催した時の講演に吉本の芸人さんに来ていただきました。とても面白くて手話をしながらお笑いもできて、聞こえる人、聞こえない人共に一緒に笑うことができ、その方もとても面白かったなと思います。吉本芸人さんの中に手話のグループがあり、何人か有名なお笑い芸人さんがみえるそうなので、そういう方を呼ぶのもいいなと思いました。そういう方だと、聞こえる人と聞こえない人が一緒に笑えますし、子どもたちも一緒に笑えると思います。その芸人さんに来てもらった時は、桃太郎の物語を、手話を使って劇として面白おかしく演じていただきました。とても楽しかったです。そういう方もいいなと思います。やはり皆と一緒に見て笑えるというのは、先ほど委員さんが言われたようにいいですね。そういうふうに社会が変わるといいなという思いも込めて、そういった方を呼ぶのもいいなと思いました。そういう方を呼ぶのにどれくらい予算がかかるのかはわかりませんが、1周年の時の大和田さんほどはかからないと思うんですが、どうでしょうか。いろいろと話を進めてきましたけども、映画にするのか、有名な俳優さんなどを呼ぶのか、そういったメインがあって、別のブースではミニお手話べり会のような、展示とか体験や、手話サークルの紹介とか、他にどんなことができますかね。場所についてですが、先ほど候補を2つ出していただきました、農業屋コミュニティ文化センターか、嬉野ふるさと会館のどちらの方がよろしいでしょうか。1周年の時の会場は、コミュニティ文化センターとクラギ文化ホールでしたね。交通の便などを考えると、コミュニティ文化センターの方がいいのかなと私は思うんですけども。嬉野ふるさと会館ですと最寄り駅が中川駅になりますね。あそこから歩いてだと10分ぐらいはかかるかなと思いますし、駐車場もそれほど多くないと記憶していますので、コミュニティ文化センターの方が駐車場も多いですし、駅からも歩いて行けますし。

委員 遠いですよ。バスはあるけど。

委員 僕はあの距離はちょっと歩けないですね。

議長 中川駅からふるさと会館までと同じぐらいですか。

委員 いえいえ。もっと遠いです。

議長 とりあえず会場はどちらの方がよろしいでしょうか。

- 委員 私もコミュニティ文化センターの方がいいなと思います。
- 委員 同じく、過去の実績や集客のことを考えると、コミュニティ文化センターが使い勝手がいいかなと思います。
- 委員 皆さんと同じで、コミュニティ文化センターの方です。大は小を兼ねるということ。
- 委員 舞台でするイベントと別ブースで展示とか、お手話べり会みたいなものをすると思うと、コミュニティ文化センターの方はロビーを使うことになるんですかね。お部屋はないですね。ふるさと会館はホール以外にもお部屋があると思います。コミュニティ文化センターのロビーが広くて、展示や一角を設けて手話教室とかができれば、コミュニティ文化センターでもいいのかなと思うんですけど。もし無理だったらふるさと会館の方がいいのかなと思います。
- 議長 事務局に確認させてください。コミュニティ文化センターはホール以外に何か部屋はありましたでしょうか。
- 事務局 コミュニティ文化センターへ入って、そのまま真っすぐ行って右側に部屋がありますが、ふるさと会館のような広さはないですね。ふるさと会館の方がだいぶ広いです。どちらを選ぶかは、イベントの内容次第になってくるんですが、決めがたいですね。
- 委員 回数は1回で決まりですか。2回はしないですか。
- 事務局 内容と予算にもよります。とりあえず1つ内容を決めた中でどれくらい余裕があるかという話になると思います。基本的にこんなことをしたいということで予算を上げていかないといけないのですが、満額が取れるかどうかもあります。2回するなら、こういう内容でこういうふうにするという形で持っていくとだめだと思います。そういうお返事になって申し訳ないです。
- 議長 1回するか2回するかというのは今日決めないといけないですか。
- 事務局 いいえ、そんなことはないです。
- 委員 事務局が言われたように、内容によって、それに合う方を選んだらいいと思い

ますので、まだどちらかというのとは言えないかなと思います。やはりできれば1年に2回ぐらい前期と後期でイベントをやりたいかなと思います。2回集まってももらえるとても盛り上がるんじゃないかなと思います。

委員 ちょっと下見をさせていただいて考えてみるのもいいのかなと思います。

委員 やはり記念事業のイベントの内容によって場所は変わってくるのかなと思います。ミニお手話べり会のようなことをやられるのであれば、ふるさと会館の方が動線的にも正面玄関から入ってまっすぐ行けば多目的ホールがあって、右に曲がって行けば講演会をするような大きなホールがあります。動線的にはすごくいいのかなと。例えば朝の10時からお手話べり会をやっていただいて、メインホールの方はお昼の13時からという形になってくるのかなと思います。イベントをたくさんやるのであれば、ホールで記念事業として1回どーんとやっていただいて、先ほどの意見にもありましたように、他のイベント、例えば氏郷祭りのブースに、お手話べり会のようなことをやっていただくとか、そういった形でも啓発イベントはできると思います。ただ、私も役所の職員でして、まちかどミニお手話べり会だけでも、事務局さんのご苦労はわかりますので、なかなか大きな会場で年2回のイベントというのは、ちょっと難しいかなと思います。逆に私の経験上ですが、2回となると予算もだいぶかかってきますし、内容が薄くなっていくのかなと思います。会場でイベントをしようと思うと、準備等で1年くらいかかってくるんですよ。10周年で行う大きなイベントでしたら、できたら1つの会場で1回にしっかり集中していただく形の方がいいかなとは思っています。

委員 場所についてですが、コミュニティ文化センターは私も今までいろんなイベントをしてきまして、ホールでメインのイベントをやって、そこのお客さんを離さないよう、ロビーで何らかして捕まえるというような形がいいのかなと思います。大きな花火は1発打ち上げるのがいいんじゃないかなということ、やはり10周年のというイベントとしては1回でやるのがいいんじゃないかと。やはり別部屋で行うとなると、部屋に入って行かないといけないので、ホールから出てきて、そこで何かやっている状況の方が寄ってもらいやすい。ホールに集まった人をなるべく逃さずに、どういうふうに捕まえられるかというイベントを考えていく。そうすると講演会か映画かわかりませんが、ホールで人を寄せて、その人を逃さないというような方法がいいのではないかなと思います。やはりこの学校における手話学習推進事業をせっかくやりますし、子どもさんが来ると必ず親がついてきますので、子どもさん

に関係した内容はやはり入れていくべきではないのかなと。その内容につきましては、どういうものがあるのかわからないんですが、何か子どもさんに発表してもらおうと、親、おじいさん、おばあさんもやって来るので、どんどん周知して広がっていくことになるのかなと考えています。

委員 訂正をお願いしたいんですが、コミュニティ文化センターの客席の方が496席で、ふるさと会館の方が706席で客席数が多かったかと思います。

事務局 申し訳ございません。資料の方で、ふるさと会館とコミュニティ文化センターの客席数が逆になっていますので、訂正をお願いします。実際は、客席数としてはふるさと会館の方が多く収容できるということになります。

議長 ご意見いただきましてありがとうございます。内容によって会場をどうするか決めていきたいと思います。時期については、どのくらいの時期がよろしいでしょうか。事務局の案はありますか。

事務局 もしメインを映画にするのであれば、早い時期でもそんなに難しくないので1周年を見ても思うんですが、誰かを招いて講演会とかをする場合ですと、その方のスケジュールにもよります。また、例えばパフォーマンス発表等、募集をかけ練習を積んで当日発表というような場合は、遅い時期でないと難しいと思います。やはり何をするかによって時期も変わってくるのかなと思います。あと、手話普及啓発ポスターの表彰式を10周年記念イベントの中に組み込んで行う場合は、例年通り夏休み前に募集をかけて9月に集めるといった流れになりますので、11月以降が最適かなと思います。それ以前だとポスターの表彰式は間に合わないと思います。

議長 映画の場合は8月ぐらいでもできるということですね。どなたかお招きするか、ポスターの表彰式をするとすると11月ぐらいになるということですね。先ほど、手話学習推進事業の話もありましたが、聾学校の学生さんと地域の小学校の子どもさんたちとの交流なんかもできればいいかなと思っています。聾学校の学生さんが来るのであれば、聾学校の文化祭は10月だと思うので、イベントは11月末ぐらいがいいのかなと思います。聾学校の文化祭が、コロナ前ですと11月だったんですが、今はコロナの影響で、10月末ぐらいの開催になっていると思います。聾学校の行事が、他にスポーツ大会とかもあるので、多分11月末ぐらいだったら、そういった聾学校の学生さんとの交流の場は持てるかなと思います。小学校の文化祭が11月ですね。11月の最初の方が文化

祭は多いんですかね。

委員 最初の方ですね。

議長 そうなんです。調整が難しいですね。皆さん、時期がなかなか決められないようですが、事務局にお任せしますか。今日決めなくてもいいんですよ。このような形でよろしいでしょうか。

事務局 ありがとうございます。様々なご意見をいただきましたので、それをまとめさせていただき、また次回の会議で詳細を決めていただきたいと思います。

議長 ありがとうございます。これで議事を終わります。その他何かありますか。

委員 事務局にお尋ねしたいんですが、手話奉仕員養成講座は、令和5年度は新しく募集はないのでしょうか。継続の人だけですか。

事務局 5年度も手話奉仕員養成講座の募集を行う予定です。

委員 ありがとうございます。では、もう募集は始まっているということですかね。

事務局 例年ですと4月に募集を行って5月に開講というスケジュールなんですけど、今、来年度のスケジュールの調整をしているところですので、その辺りが確定次第、募集をかけさせてもらう形で考えております。

委員 ということは、来年度も手話奉仕員養成講座があつて、もう講師さんとの契約は終わっているのでしょうか。

事務局 まだ契約という形では決まっていない状況です。

委員 そしたら私の方から手話奉仕員養成講座の講師について意見があるんですけどよろしいでしょうか。

事務局 すみません。契約としてはまだ決まってないですけど、ただ下話は今しているところでございます。

委員 無理かどうかわかりませんが、私の個人的な意見として聞いていただきたいと思います。松阪市の手話奉仕員養成事業が2014年から始まって、もう丸9

年ということですよ。この奉仕員養成事業の目的は、講座で手話を学んで、その学んだ手話を身につけて地域の聞こえない人と交流したりして、手話ができるようになっていく。手話ができる人を増やしていくというのが1つの目的なんですけど、さらに手話に磨きをかけて手話通訳者の養成につなげていくという、もう1つの目的があるんですよ。松阪市の手話奉仕員養成講座が終了した人の中から、三重県一本でやっている手話通訳者の養成事業に行く人がいまだかつていないんですよ。ということは、松阪市からは新しい手話通訳者が出てこないということなんです。今まで手話サークルで学んでいて、手話通訳者の養成事業に行くという人は過去にいましたけども、市の予算を使って毎年行っている手話奉仕員養成事業の中から手話通訳者の養成に行く人がいないというのは、どういうことなのかなと思ひまして。1つ私が気になっているのは、講師はずっと同じ方が担当していると思ひます。私は手話通訳者の養成の講師をしているんですが、そちらの方でも手話通訳者の試験に受からない人の方が多いいんです。けどもそうやって受からないというのは、試験に通るような技術をちゃんと身に付けさせていない講師にも責任があると言われていひます。それだけやはり講師の責任というのは大きいいんです。だから、講師を批判するようでも申し訳ないんですけれども、やっぱりきちんと手話通訳者になろう、頑張ろうという人たちを、奉仕員養成事業でも育てていただきたいと思ひます。そこら辺がやっぱり欠けているんじゃないのかなと。松阪市としてはずっと同じ講師に頼んでいるということが、本当にこのままでいいのかなどうか、どこら辺がまずいいのか、どう変えたらいいのか検証してほしいなと思ひます。全国の手話研修センターというところが講師の養成をしています。その講師養成を終了した人たちが手話奉仕員養成の講師として、三重県ではいろんなところで教えているんですが、松阪市さんの場合は、1人の講師さんをお願いをしていて、そういう手話研修センターの講師養成を終了した講師の資格を持っている人たちに頼んでいひません。ですから深川さんや講師資格を持っている他の人が松阪市では教えられなくて、他の伊賀市や志摩市、伊勢市、鳥羽市とかに行つて教えているんです。とてももったいないことだと思ひます。地元の聞こえない人がきちんと地元で活躍できて、手話の奉仕員や通訳者を育てていけるように、市役所の方で検討していただけないかなと思ひます。地元の聞こえない人の手話を通じて、手話通訳者になろう、頑張って聞こえない人たちと一緒に活動していこうというような人を育てていけるような奉仕員養成事業にしていただきたいなと思ひまして、講師さんのことについて意見を申し上げました。ぜひ検証をお願いしたいと思ひます。

事務局 貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。実際、講師さんに講座

をお願いするのに、これまで逆に苦勞をしていたと私自身は思っていました。そういった教えていただける方がたくさんみえるということ自体を本当にわかっていなかったというのが現実でございまして、非常にそこら辺が認識が足らなかったと今話を聞いて思っております。ご意見をいただいた内容を今後皆で話し合いをしていきたいと思っておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

委員 すみません、少し追加で、その講師についてなんですが、三重県の方は全国の手話研修センターの方に依頼をして、そちらの方から講師に来ていただいて、三重県の中で手話奉仕員の養成ができるような講師を養成しております。それは三重県の聴覚障害者協会が担ってしています。ですから、例えば伊勢市とか、志摩市とか、鈴鹿市とか、いなべ市とか、桑名市とか、そういったような市は三重県聴覚障害者協会と契約をしまして、講師養成の委託をしております。例えば松阪市に在住している、資格を持っているような講師だけで足りなければ、三重県聴覚障害者協会が調整をして、他の、例えば津市で活動している人とか、鈴鹿市で活動している人とかで講師団を作りまして、松阪市から委託をされたらそこで講習会ができるようなそういうシステムになっております。講師は必ず聞こえない人と、聞こえる人とがペアでいつも一緒に教えていくということになっています。聞こえない人と手話で通じ合うということはすごく大事なんですが、自分がしている手話がいいのか悪いのか、間違っているのかどうなのか、本当に通じているのか、きちっとわかりたいことは日本語でも喋って、聞こえる講師の方がフォローできますので、ペアで教えていくということを基本にやっております。ですから、そういった講師についても、もしもっと詳しいことが知りたいということでしたら、三重県聴覚障害者協会の事務局にお問い合わせいただいたらいいかなと思いますので、ぜひまたご検討ください。

事務局 現状として、次年度におきましては下話もさせていただいておりますので、現状の講師さんでということになろうかと思えます。今後のことは勉強しながら考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

議長 今後の企画として、よい案があればご意見いただければと思います。今日予定していた協議事項はこれで終了ですが、皆さんご質問等ございませでしたら、本日の会議はこれで終了とさせていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。では皆様お疲れ様でした。では進行を事務局にお返しいたします。

事務局 次回の会議の開催については4月頃に開催したいと思っております。日程が決

まり次第開催通知をお送りしますので、よろしくお願いたします。それではこれをもちまして第 40 回松阪市手話施策推進会議を終了いたします。お疲れ様でした。